

(様式)

令和7年度 高校生防災アクション計画・報告書		学校名	岐阜県立大垣南高等学校		
<b>1・目標</b>					
1年生「家庭基礎」の学習活動を中心として、「LHR」や「総合的な探究の時間」の取り組み、学校家庭クラブ活動等と連携を取りながら、防災や減災に対する意識を高め、自助・共助・公助の意味を正しく理解することを通じて、いざという時に災害から自分の命と暮らしを守るとともに、地域に貢献しようとする行動力を育てる。					
<b>2・異なる危険を想定した年間3回以上の命を守る訓練</b> ※行が不足する場合は追加をすること。					
回	年月日	想定する危険	実施内容	参加人数	
1	計画	令和7年6月10日	災害	帰宅確認訓練	生徒・職員 764名 その他 ( ) 名
	実施	令和7年6月10日	災害	帰宅確認訓練	生徒・職員 764名 その他 ( ) 名
2	計画	令和7年6月13日	地震、火災	避難訓練、消火訓練	生徒・職員 764名 その他 ( ) 名
	実施	令和7年6月13日	地震、火災	避難訓練、消火訓練	生徒・職員 764名 その他 ( ) 名
3	計画	令和7年9月26日	地震、弾道ミサイル	シェイクアウト訓練	生徒・職員 764名 その他 ( ) 名
	実施	令和7年9月26日	地震、弾道ミサイル	シェイクアウト訓練	生徒・職員 763名 その他 ( ) 名
<b>3・防災に関する主な取組の計画</b> ※防災教育に関する講話・授業・行事等の実施月と内容について簡潔に記入してください。					
(1) 家庭基礎 (1年生) : 住居分野の防災に関する単元にてDVD「災害から命と暮らしを守る」を視聴後、住んでいる地域のハザードマップを確認し、マイ・タイムラインの作成。 学校が避難所になった時を想定して、問題点や解決策についてグループ交流の実施。					
(2) 減災力テスト (1年生240名) : 5月に1回目、11月に2回目の実施。					
(3) 防災出前講座 (1年生240名) : 10月に中部地域づくり協会地域づくり技術研究所より講師を招いて講演の実施。 浸水疑似体験映像 (VR) を用いる等風水害に関する内容。					
(4) 総合的な探究の時間 (1年生) : 防災をテーマとした探究活動の実施。(携帯トイレの使い方の講義と演習)					
(5) 保育基礎 (3年生選択者14名) : 認定こども園にて防災に関するパネルシアターの実演。					
(6) 家庭クラブ・生徒会による啓発活動 : 文化祭 (9月) にて「学校の位置する地域の自然災害と防災食」をテーマとした企画展示の実施 (※予定)。 VRによる浸水疑似体験のできるブースや防災食の試食コーナーの設置 (※予定)。					
(7) デイサービスセンターと合同で命を守る訓練 : 家庭クラブ活動での交流時に実施 (※予定)。					
(8) 家庭科教員に対する研修会 (西濃地区) : 夏季休業中に清流の国ぎふ防災・減災センター コーディネーター 地域防災マネージャーである兒玉靖氏を講師として招いての講演の実施。					
<b>4・防災に関する主な取組の報告</b> ※誰が、誰と、何をしたかを具体的に記入してください。					
※別添の資料を参照					
連携した組織など	<input type="checkbox"/> PTA <input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育園 <input type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 大学・専門学校 <input type="checkbox"/> 市役所・町村役場 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> 病院等医療機関 <input type="checkbox"/> 警察署 <input type="checkbox"/> 气象台・気象庁 <input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災センター <input type="checkbox"/> 防災士会 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・NPO法人 (中部地域づくり協会地域づくり技術研究所) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (デイサービスセンター)				
減災力テスト	回	平均点	実施学年	備考	
	1	56.2点	<input checked="" type="checkbox"/> 1年生 <input type="checkbox"/> 2年生 <input type="checkbox"/> 3年生 <input type="checkbox"/> 4年生	地震に関わる1から6の項目は72%と点数が高かったが、風水害に関わる11から16の項目は56%と点数が低かった。	
2	65.6点	<input checked="" type="checkbox"/> 1年生 <input type="checkbox"/> 2年生 <input type="checkbox"/> 3年生 <input type="checkbox"/> 4年生	地震に関わる1から6の項目の伸び率は8.6だが、風水害に関わる11から16の項目の伸び率は14と高かった。		
成果と課題	まとめと今後の課題 ①様々な実践を踏まえ、多くの生徒が防災を「自分事」として考えられるようになった。 ②身近な家庭生活から学校や地域など公共の場での災害時の生活を関連付けて考えることができ、自助・共助・公助の意を正しく理解できるようになった。 ③地域のために何ができるかを考えて行動しようと思う生徒が実際に行動に移せる場が少ないため、学校家庭クラブ活動などで交流の場をつくっていききたい。防災出前講座で外部講師の先生に教えていただいたように地域のインフルエンサーになれる生徒を育成していけるよう防災に関して地域と学校の持続可能な体制作りが必要で、授業において継続的に扱っていく必要がある。 ④防災教育を様々な角度から行う必要がある。「家庭基礎」だけではなく「総合的な探究の時間」や「LHR」と連携して外部講師を招聘するなど、教員と生徒が共に防災の専門家から技術や知識を習得し、演習を行う中で実践力・行動力を養うことが必要である。 ⑤校内でチームを作り、災害に対する問題意識と対応策について取り組む持続可能な体制作りが必要で、「危機管理マニュアル」について全教員の共通理解から始めることが大切である。				